



# 状況に応じた**対応**を考えよう

## 大雨が発生した場合

甲賀市から発表される避難情報（避難準備情報、避難勧告、避難指示）に従い行動しましょう。  
また、雨の降り方や周辺の状況から**“あぶない”**と感じたら、**自分から進んで早めに避難をしましょう。**

警戒レベル <b>1</b>	警戒レベル <b>2</b>	警戒レベル <b>3</b>	警戒レベル <b>4</b>	警戒レベル <b>5</b>
災害への心構えを高める	ハザードマップ等で避難行動を確認	高齢者等は速やかに避難 <small>高齢者等避難</small>	速やかに避難 <small>避難指示</small>	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる <small>緊急安全確保</small>

## 大きな地震が発生した場合

揺れがおさまったら、ため池のすぐ下流にお住いの方や作業中の方は、高台やため池から離れた場所へ避難しましょう。外への避難が困難な場合は、家の2階のため池とは反対側の部屋へ移動しましょう。

自宅に留まることも選択肢の一つ  
浸水の中を避難することはとても危険です。浸水がすでに始まっている場合や、自宅がため池から離れており浸水被害が小さいと予想される場合は自宅に留まり、2階へ避難するというのも選択肢の一つです。

家屋の浸水を軽減する方法『ゴミ袋による簡易水のう』  
40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。

## 避難をする時に注意すること

◆**ため池決壊以外の災害も意識する**  
ため池が決壊するおそれがある状況では、周辺で右図のような災害も発生している可能性があることに注意して避難しましょう。

◆**危険な場所は避ける**  
できるだけ狭い道や塀ぎわ、川や水路の近くなどは避け、安全な広い道を選んで避難しましょう。

◆**浸水し始めたら無理をしない**  
歩ける水深の目安はひざくらいまでです。水深が浅くても流れが速くなると大変危険なので、無理をしないようにしましょう。



**災害用伝言ダイヤル 171**  
大規模な災害が発生したときの「声の伝言板」です。安否確認にご利用ください。

171 にダイヤル → 案内が流れます

伝える場合 1 → 録音の案内が流れます

聞く場合 2 → 再生の案内が流れます

**市外局番 - 被災した家の電話番号**

※被災地の人は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の人の電話番号を市外局番から入力

# 甲賀市 ため池ハザードマップ

## 西池版

このマップでは、西池が決壊し、全ての貯水量が流出する状況を想定しています。

**わが家の防災メモ** いざという時あわてないために、家族の連絡先を記入し、緊急時の集合場所、避難場所を決めておきましょう。

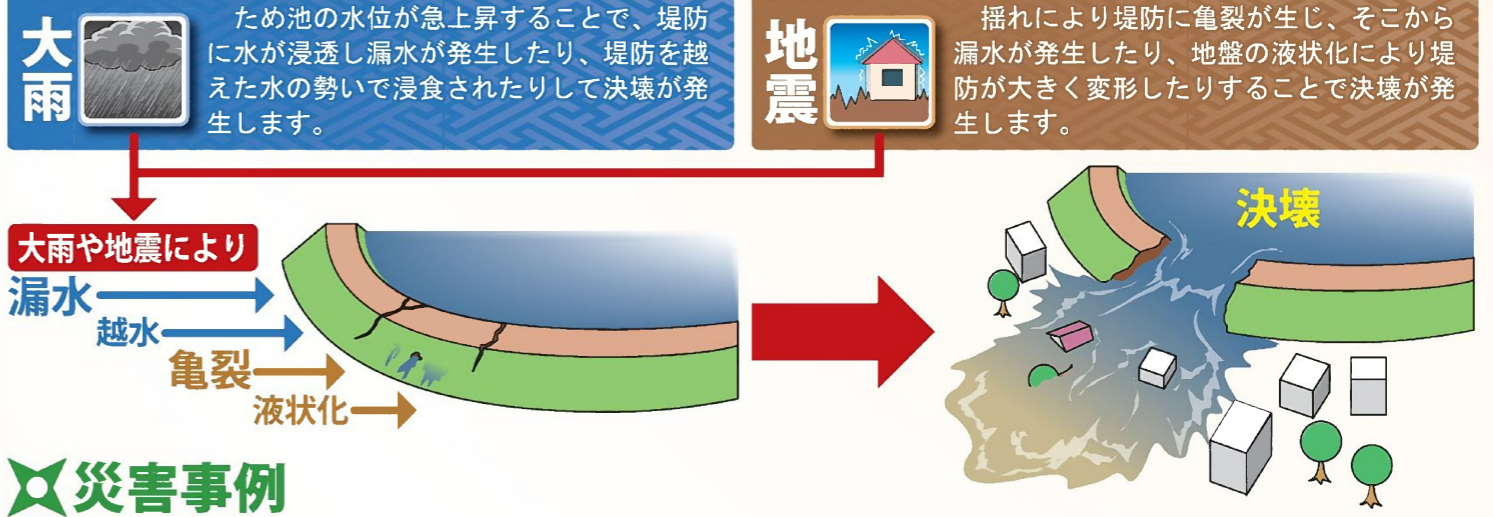
名前	生年月日	血液型	連絡先

## 避難経路図

ご自身が避難する際の経路を記入してください。

# ため池**決壊**について知ろう

## ため池決壊の原因と起こり方



◆**災害事例**

**大雨** 平成30年 西日本豪雨（平成30年7月7日）  
大雨により広島県福山市でため池が決壊しました。グラウンドなどが崩れて、下方の農業用ため池2ヶ所が崩壊し、3歳女児が土砂に巻き込まれて亡くなるなど、沢の下流側に甚大な被害が生じました。

**地震** 東北地方太平洋沖地震（平成23年3月11日）  
震度6弱の揺れで、山の上にある藤沼湖が決壊し、死者・行方不明者8名を出す被害となりました。

- 地震発生から20～30分後に決壊。
- 田植え前で満水状態であった貯水が全て流出。
- 下流の集落に土石流となって押し寄せた。

# 甲賀市ため池ハザードマップ

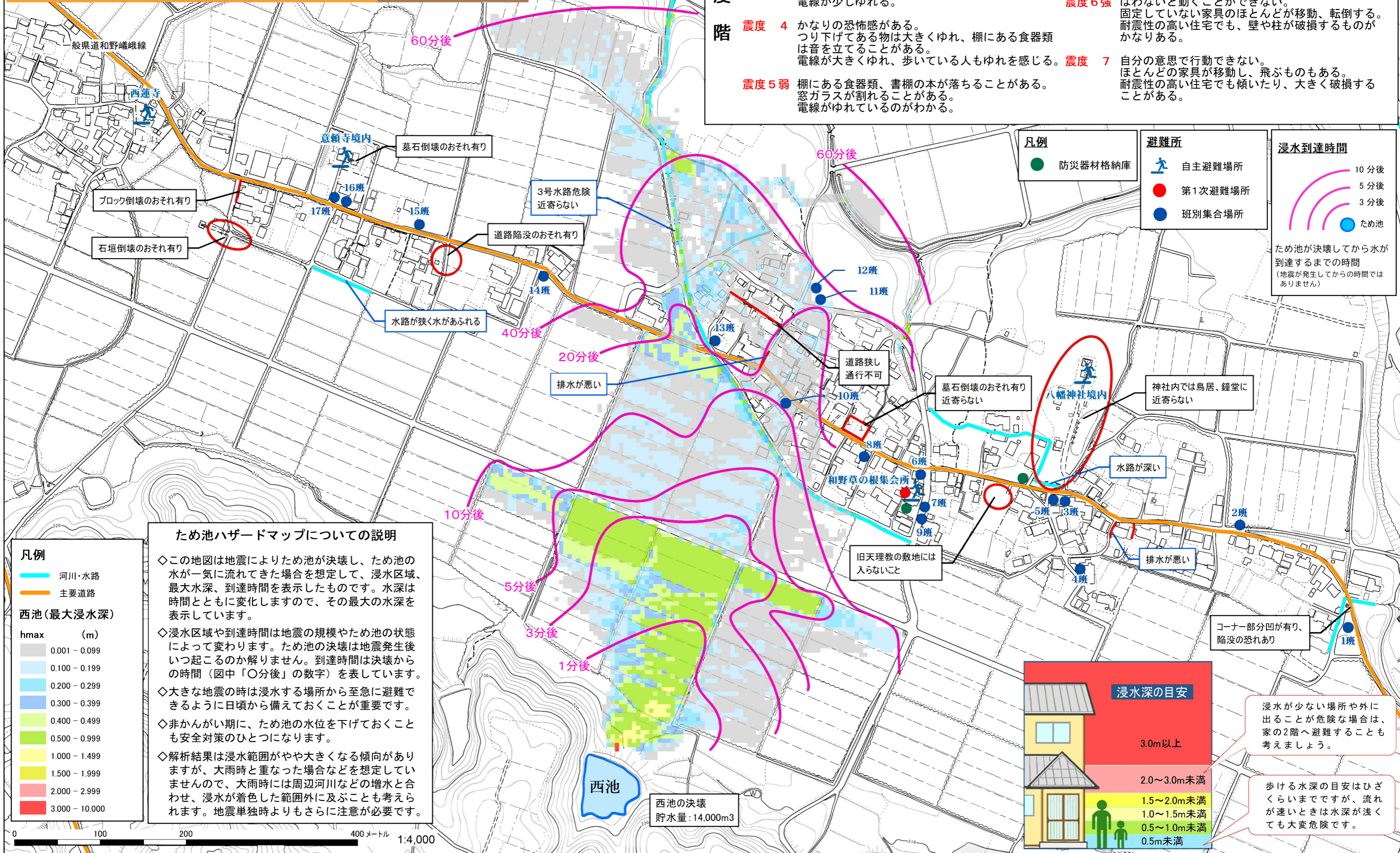
## 西池版

# 地震



### 震度階

- 震度 0** 人は揺れを感じない。
- 震度 1** 屋内にいる人の一部が、わずかなゆれを感じる。
- 震度 2** 屋内にいる人の多くがゆれを感じる。つり下がった電灯などがわずかにゆれる。
- 震度 3** 屋内にいる人のほとんどがゆれを感じる。棚にある食器類が音を立てることがある。電線が少しゆれる。
- 震度 4** かなりの恐怖感がある。つり下げた物が大きくゆれ、棚にある食器類は音を立てることがある。電線が大きくゆれ、歩いている人もゆれを感じる。
- 震度 5弱** 棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。窓ガラスが割れることがある。電線がゆれているのがわかる。
- 震度 5強** 多くの人が行動に支障を感じる。タンスなどの重い家具や自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難になる。
- 震度 6弱** 立っていることが困難になる。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。
- 震度 6強** はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動、転倒する。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。
- 震度 7** 自分の意思で行動できない。ほとんどの家具が移動し、飛ぶものもある。耐震性の高い住宅でも傾いたり、大きく破損することがある。



**凡例**

- 河川・水路
- 主要道路

**西池(最大浸水深)**

hmax (m)	色
0.001 - 0.099	White
0.100 - 0.199	Light Blue
0.200 - 0.299	Blue
0.300 - 0.399	Dark Blue
0.400 - 0.499	Light Green
0.500 - 0.999	Green
1.000 - 1.499	Yellow-Green
1.500 - 1.999	Yellow
2.000 - 2.999	Orange
3.000 - 10.000	Red

**ため池ハザードマップについての説明**

- ◇この地図は地震によりため池が決壊し、ため池の水が一気に流れてきた場合を想定して、浸水区域、最大水深、到達時間を表示したものです。水深は時間とともに変化しますので、その最大の水深を表示しています。
- ◇浸水区域や到達時間は地震の規模やため池の状態によって変わります。ため池が決壊は地震発生後いつ起こるのか解りません。到達時間は決壊からの時間(図中「〇分後」の数字)を表しています。
- ◇大きな地震の時は浸水する場所から至急に避難できるように日頃から備えておくことが重要です。
- ◇非かんがい期に、ため池の水位を下げておくことも安全対策のひとつになります。
- ◇解析結果は浸水範囲がやや大きくなる傾向がありますが、大雨時と重なった場合などを想定していませんので、大雨時には周辺河川などの増水と合わせ、浸水が着色した範囲外に及ぶことも考えられます。地震単独時よりもさらに注意が必要です。

**凡例**

- 防災器材格納庫

**避難所**

- 自主避難場所
- 第1次避難場所
- 班別集合場所

**浸水到達時間**

- 10分後
- 5分後
- 3分後
- ため池

ため池が決壊してから水が到達するまでの時間(地震が発生してからの時間ではありません)

**浸水深の目安**

3.0m以上
2.0~3.0m未満
1.5~2.0m未満
1.0~1.5m未満
0.5~1.0m未満
0.5m未満

浸水が少ない場所や外に出ることが危険な場合は、家の2階へ避難することも考えましょう。

歩ける水深の目安はひざくらいまでですが、流れが速いときは水深が浅くても大変危険です。